



## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 177号 2010.10.19 発行 社会政策研究所

### 精神障害の被告、施設で更生前提に刑猶予

読売新聞 2010年10月19日



精神科に通院・入院歴がある長崎市の無職男性被告(34)が自動車運転過失傷害罪などに問われた裁判で、長崎地裁は18日、自立訓練施設での受け入れを前提とした執行猶予付き有罪判決を言い渡した。

厚生労働省は犯罪を繰り返す知的・精神障害者らへの執行猶予付き判決を求め、自立訓練施設での更生を目指す地域社会内訓練事業を進めており、被告はこの事業で、施設に入所する初のケースとなる。

検察側の懲役1年2月の求刑に対し、判決は懲役1年2月、執行猶予3年。同地裁の内藤恵美子裁判官は判決理由で「社会福祉法人などが立ち直りに協力することにしている」などと述べた。

判決によると、被告は8月10日午前7時25分頃、長崎市の国道を無免許で運転し、渋滞で停車していた乗用車に追突、運転していた男性(当時31歳)に打撲など2週間のけがを負わせたうえ、逃走するなどした。

弁護側によると、被告は約10年前から精神科に通院・入院し、交通違反などを繰り返していた。

弁護団は事業の手続きに沿い、知的障害者らの再犯防止に取り組む「長崎県地域生活定着支援センター」に報告。保護観察所職員や精神科医などでつくる「判定委員会」がセンターから審査の依頼を受け、「福祉施設への入所が妥当」とする判定書をまとめた。

18日の初公判で、裁判所は判定書を証拠採用。被告が入所予定の施設を運営する社会福祉法人「南高愛隣会」(長崎県雲仙市、田島良昭理事長)の職員が弁護側証人として出廷し、被告は精神障害の可能性が高いとして施設での更生を訴えた。一方、検察側は「無免許運転は常習的で悪質」と主張した。

同会によると、被告はいったん病院の精神科に入院し、正式な診断と治療を受けた後、雲仙市の自立訓練施設に入所する見通し。ボランティア活動などに従事して更生を目指す。

### 発達障害向け特別教室 児童生徒数が5年で1.2倍

神戸新聞 2010年10月19日

学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)など発達障害児、発達障害者向けの教室で、特別な指導を受けている児童生徒が、兵庫県内に776人(5月現在)いることを、県教育委員会が18日、明らかにした。2006年度は64人だったが、5年で約1.2倍に増えた。背景には近年、発達障害への理解が急速に広がり、受け入れ態勢も整ったことがあるとみられる。

同日の県議会決算特別委員会の席上、高橋進吾議員(自民党、神戸市東灘区)の質問に答えた。

ただ、発達障害の子どもの実数は調査されておらず、発達障害があっても通常の学級で学ぶ児童生徒もいる。このため、県教委は「発達障害のある子どもはもっと多い」とみて

いる。

県教委によると、特別な指導をする教室は「通級指導教室」と呼ばれ、小中学校内に開設。各市町教委の就学指導委員会が「特別な指導が必要」と判断した児童生徒が通常学級に籍を置きながら週8時間～月1回の範囲で、「学校生活支援教員」から感情や行動のコントロールなどを学んでいるという。

発達障害向きの通級指導教室を、県教委がスタートさせたのは06年度。当初、担当教員の配置は県内で10人だったが、10年度は各市町2人ずつの計82人が配置され、82教室が開設されている。

対象の児童生徒が増えた背景には、発達障害への理解が広まり障害に早く気づいたり、専門的指導を求めたりする保護者の存在もあるという。県教委は「通級指導教室でのノウハウを教育現場に広げ、発達障害の指導を充実させたい」としており、指導内容はホームページで公開している。

アドレスは <http://www.hyogo-c.ed.jp/~sho-bo/>

(中島摩子)

### パリ市：滋賀の嘉田県知事らに勲章 障害者美術展貢献で

共同通信社 2010年10月18日

パリ市当局は18日、市庁舎で滋賀県の嘉田由紀子知事と同県社会福祉事業団の北岡賢剛理事長の2人に銀メダル勲章を授与した。日本の知的障害者らが参加し同市の美術館で開かれている作品展「アル・ブリュット・ジャポネ」への貢献などが評価された。パリ市が授与する勲章は三つあり、銀メダルは2番目に価値が高い。

市立美術館「アル・サン・ピエール」で3月から開かれている作品展は、同事業団などの協力で日本全国の作家63人の約1000作品が展示された。団体客を除く個人の鑑賞者だけで5万人以上が訪れたとされ、美術館側は「大成功」としている。

叙勲式で嘉田知事は「障害ある子供たちを世の光に」という言葉を紹介しながら「このような展覧会を、日本だけでなくアジア地域で発展させていきたい」とあいさつ。

北岡理事長は「福祉とは人間としての誇り、立つ瀬を持つことだと信じてやってきた。勲章は、事業団のスタッフ全員の喜び」と述べた。既に福岡、埼玉など全国8美術館から作品展開催の打診が来ているという。(共同)

### キヤノンウィンド入社式

大分放送 2010年10月18日

知的障害者の雇用促進を目的に大分市に設立された会社でキヤノン入社式が行われました。入社式が行われたのは大分市の『キヤノンウィンド』です。この会社は大分キヤノンと大分市の社会福祉法人・暁雲福祉会が共同出資で設立したもので知的障害者を雇用しデジタルカメラの付属品や説明書の袋詰め作業を行います。今年度採用された5人の入社式では村野誠社長が「キヤノングループの一員という心構えをもち仕事に励んでください」とお祝いの言葉を述べました。これを受けて新入社員を代表して福田勝利さんが「保証書を数える時手元を見て頑張ります」と意気込みを語りました。県内の障害者雇用率は去年6月時点で2・15%で全国3位の水準です。しかしこの大部分は身体障害者で知的障害者の雇用が進んでいないのが現状でキヤノンウィンドでは、今後も積極的に知的障害者の雇用を進めていく方針です。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行